

豊川市議会傍聴記

地方政治
クリエイティブ

伊藤 秀昭

街路樹等管理

柴田訓成氏(公明)は神奈川県川崎市で街路樹の枝が折れ、落下し子どもがけがをした事故や国交省の「道路緑化技術基準」が改正されたことなどを踏まえ、街路樹などの対策について取り上げた。

市民協働の仕組みづくりを要請した。

星川氏は市営住宅の加入促進や町内会の有用性をもっと発信すべきことを強調したが、元氣な初質問だった。

同駅の乗降客数の今後の推移が大きな課題であるとした。

上げを行う改修により、中学生の硬式野球大会が年間4大会程度開催できるようになった。市野球場は今年度、軟式野球場として大規模改修を行うとした。

また自主防災会が保有する防災倉庫や資器材の保有状況についても全体把握ができていないことも併せて、早急に取り組みよう要請した。

「障害者差別解消法」に対する取り組みについて、「百の講義より一つの実践」が大切であり、福祉実践教室のような体験的な研修を取り入れることや、視覚障害者対策としての音の出る信号機の設置や、福祉ボランティアの

め、選挙中に訴えてきた児童療育支援のさらなる充実、小中学校の普通教室へのエアコン設置、18歳までの医療費無料化の3点について、市当局に実現を迫った。

新人議員が元氣に登壇し、初質問



児童発達支援施設「ひまわり園」の子通園の助成制度の復活については、安間氏の何度もの質問に、市長が答弁に立ち「法律上、同じサービスを提供する他の障害児通所支援施設を利用する保護者との公平性を保つために廃止した。復活はない」とした。

建設部長は現場条件や気候などを加味して、維持費軽減を図られるような樹種を決め、安全・安心な街づくり事業に取り組むとした。

川博文氏(とよかわ未来)は町内会加入率が78・3%と年々減少傾向にある現状から、今後の地域コミュニティについて問題提起した。

以後の地域の悲願であるJR愛知御津駅周辺の整備や南北連絡道路について踏み込んだ。

建設部長は過大な事業費以外にも「パリアフリー新法」で

春を送った浦野準次氏(とよかわ未来)は、豊川市議会というグラウンドに議員として初登壇。硬式野球場の整備について取り上げた。

特に多くの自主防災会では町内会長が会長を兼任しており、町内会長が毎年

登録についても手続きがワンストップでできないかなど、長年の活動現場からの具体的な提案がなされ、説得力ある初質問だった。

新たな「児童発達支援センター」の設置については、早期に取り組みとした。

柴田氏はそのためにも、身近な街路樹管理や草刈り作業への住民参加を図り、

市民部長は「町内会は市の最大のパートナー」と位置づけ連携、協働という関係

教育部長は「3年前から検討協議を重ねスポーツ公園野球場は、防球ネットのかさ

自主防災会 大場昌克氏(とよかわ未来)は災害時の「共助」の中心である自主防災活動について聞いた。

障害者理解の推進 長年、福祉ボランティアとして活動してきた八木月子氏(一人会派)は来年4月から施行される

子どもたちの未来 安間寛子氏(共産)は豊川の子どもの未来を保証するた

「ひまわり園」の子通園の助成制度の復活については、安間氏の何度もの質問に、市長が答弁に立ち「法律上、同じサービスを提供する他の障害児通所支援施設を利用する保護者との公平性を保つために廃止した。復活はない」とした。

新たな「児童発達支援センター」の設置については、早期に取り組みとした。